

共同声明（仮訳）

第9回 ASEAN+3(中、日、韓)エネルギー大臣会合 2012年9月12日、カンボジア・プノンペン

1. 第9回 ASEAN+3(中、日、韓)エネルギー大臣会合(AMEM+3)が2012年9月12日にカンボジアで開催された。会合では、カンボジア王国のスィ・セム産業鉱物エネルギー大臣が議長を務め、中国の呉吟・国家能源局副局長、日本の北神圭朗・経済産業大臣政務官、および韓国の李官燮・知識経済部エネルギー資源室長が共同議長を務めた。また、会合には、ブルネイ、カンボジア、インドネシア、ラオス、ミャンマー、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイおよびベトナムのエネルギー大臣が参加した。
2. 大臣は、東京電力福島第一原子力発電所を安定な状態に至らせた日本政府の取り組みを認識するとともに、事故から学び蓄積された知識と教訓を、日本が引き続き国際社会と共有することを希望した。大臣は、増大するエネルギー需要、中東の不安定な地政学的状況やエネルギーセキュリティに対するそのインプリケーションといった展開がみられる中、経済競争力や環境の持続性とともエネルギー安全保障のバランスをとる必要があることを認識した。大臣は、持続性のあるエネルギーの将来に向けて ASEAN+3 エネルギー協力へのコミットメントを強化することに合意した。
3. 大臣は、エネルギー協力の連携改善の必要性を認識し、ASEAN のコネクティビティを強化することがより優れたエネルギー安全保障を達成するという目標に地域を近づけるということに関して意見が一致した。大臣は、SOME+3 エネルギー協力の進捗に謝意を表明した。大臣は、国家間の協力が、エネルギー源の多様化、人材育成、情報共有と交換、および、持続可能な発展と低炭素成長経済の促進への鍵となることに留意した。

エネルギーセキュリティ

4. 大臣は、エネルギーセキュリティに関して、特に、民生用原子力エネルギー、石油備蓄、石炭とクリーンコール技術を含む、地域の可能なエネルギーの選択肢を研究するためには関係者の協力が重要であることを認識するとともに、その活動が着実に進捗していることを歓迎した。これに関して、大臣は、ASEAN+3 エネルギー協力の一つであるエネルギーセキュリティフォーラムをリードすることについて日本に謝意を表明した。

5. 大臣は、韓国の民生用原子力エネルギーの人材育成におけるフェーズ2の実行計画と、日本の核不拡散・核セキュリティ総合支援センターの活動進捗を歓迎した。
6. 大臣は、石油備蓄において、以下の2012-2013年のフォローアップ活動を歓迎した。
(i)石油備蓄ロードマップ(OSRM)に関する検討・策定の継続、(ii)各国の石油備蓄活動の進捗状況に関する年次情報の収集、および、(iii) +3 国の支援と協力を得たASEAN 各国の石油備蓄ロードマップの実行を促進するワークショップの開催。大臣は、石油備蓄推進における計画と決定段階、そして、建設と操業段階に関するワークショップの開催を承諾したアセアン・エネルギー・センター(ACE)と日本の石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC)に謝意を表明した。これらのワークショップは、地域のエネルギー安全保障と緊急事態に対する準備を強化するものとして期待されている。大臣は、ACE がJOGMECと協力しながら、引き続き ASEAN+3 各国の改訂されたカントリーレポートを収集し、石油備蓄ロードマップレポートにまとめることを促した。大臣は、また、石油備蓄ロードマップ活動に有用なレファレンスとして、各国のニーズを明確化するためにACE が引き続きアンケート調査を実施することを促した。大臣は、+3 各国や国際エネルギー機関(IEA)が必要に応じて支援や援助を行いながら、ASEAN 各国が石油備蓄ロードマップを着実に進展させることを促した。
7. 大臣は、その使用上における環境上の懸念をよそに、石炭が地域の主要な燃料源であることを認識し、低品位炭の高品位化技術、二酸化炭素回収貯留(CCS)、石炭ガス化、石炭液化などのクリーンコール技術に関する協カプログラムを推進するさらなる取り組みを歓迎した。大臣は、より緊密な協力関係を育み、クリーンコール利用に関する積極的な協力を促進するために、ASEAN 石炭フォーラム(AFOC)の今後の会合や活動に+3 各国を関与させるというイニシアティブを支持した。
8. 大臣は、ASEAN+3 各国間の情報共有を強化するために、政策研究、分析をサポートする人材育成プログラムを実施し地域のエネルギーアウトルックを策定する上で、ACE と日本エネルギー経済研究所(IEEJ)の継続的な協力を歓迎した。大臣は、ACE が引き続き ASEAN+3 各国の石油価格データを毎月収集し、ACE のウェブサイトで公開することを促した。

石油市場・天然ガス

9. 大臣は、石油価格の過度の乱高下が経済の不安定性の原因であるかもしれないことを認識し、石油市場が透明性をもって機能することを推進する必要性を認識し、共同機関データイニシアティブ(JODI)への継続的な支援を表明した。大臣は、世界市場において乱高下する石油価格への対応策に関する情報の更なる共有と交換を行うことを ASEAN+3 各国に奨励した。大臣はまた、認識される地政学的リスクに起因する石油供給価格の乱高下と石油供給の不確実性に対処すべく解決策を求める

上で学んだ経験や教訓を共有することを各国に促した。

10. 天然ガスが世界及び地域のエネルギーミックスにおいて、ますます重要な役割を果たすという見解のもと、大臣は、天然ガス部門、特に、LNG 問題、非在来型ガス、および、増加・奨励している民間部門の参画における協力を強化することに合意した。大臣は、また、2011 年 10 月 24-25 日に第1回石油市場・天然ガスフォーラムおよび第1回 ASEAN+3 石油市場・天然ガスビジネス対話を開催したことについて ACE とインドネシアを称賛し、石油市場・天然ガスフォーラムをリードする中国に謝意を表明した。

再生可能エネルギー、省エネルギー

11. 大臣は、地域のエネルギー原単位を 2015 年までに 2005 年比で 8%削減し、再生可能エネルギーの割合を 2015 年までに総設備電源容量の 15%とするという ASEAN の期待目標の達成に向けて、順調な進捗がみられることに留意した。大臣は、CDM プログラムの進捗を認識し、国家緩和行動 (NAMAs) を含めた ASEAN+3 CDM プログラムの継続と拡大、そして、新再生可能エネルギー・省エネルギーフォーラムをリードしたことに対して韓国に感謝の意を表明した。
12. 大臣は、PROMEEC・MTPEC プロジェクトなどの日 ASEAN 省エネルギープロジェクトが成功裡に終了したことに留意した。また、地域のさらに持続的な発展の確保に向けた次ステップとしての新たな省エネルギー協カイニシアティブについても留意した。
13. 大臣は、新しく革新的な解決策が、将来のエネルギー需要を満たすための方程式の一部であることを認識し、スマートグリッド技術に関する経験や計画の情報共有に対し、韓国と日本を称賛した。大臣は、中国、日本、韓国に、運輸部門のエネルギー原単位削減を考慮した大量輸送を含めた需要サイドのエネルギー管理手法とともに、再生可能、省エネルギーに関する革新的なファイナンス・スキームのベストプラクティスを共有することを促した。

次期会合

14. 大臣は、第 10 回 ASEAN+3 エネルギー大臣会合のため、2013 年インドネシアで再会することに合意した。
15. 大臣は、カンボジアの政府と国民による第 9 回 ASEAN+3 エネルギー大臣会合における温かい歓待と素晴らしいアレンジに対して謝意を表した。